

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 2 回看護学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成 24 年 8 月 8 日（水）14:00～16:00
場所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者：宮本委員、仲井委員、石橋委員（ネット参加）

（事務局 井端、森下、平田）

III. 検討事項

看護の現場で必要となる知識技術などの習得を、ICT を用いることによっていかに教育効果の改善を図りつつ実現できるかという観点から「看護学教員の教育力」について論議を進め、「教育改善モデルの実現に求められる教育力」および「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」に関して以下のように纏めた。

1. 教育改善モデル実現に求められる教育力

看護学教育では、患者に一番近い立場で活動する看護職の特性を重視し、領域を超えた他職種との交流を促進するために必要なコミュニケーション能力の涵養を目指すことを踏まえて、「看護学教育における教育改善モデル」を確認しながら、とりわけ重視すべき学生の能力を取り上げ、その実現ために必要な教員の教育力について、以下の通り検討した。

- ① 教育改善モデル「2.1 授業のねらい」にあるように「看護学の各領域の枠を超えた課題に対し、学生がネット上で主体的に学年を問わず討議することで、知識・技術・態度の統合化を行い、実践的な患者指導技術の活用力の修得」を実現するためには、他職種や他組織との連携なども取り入れた実践的な授業シナリオを作成することが求められる。
- ② 教育改善モデル「2.2 授業の仕組み」にある「講義・演習・臨地実習に加えて、ネット上で生活指導事例、指導に必要なエビデンス、社会資源の活用について、多角的な意見交換と情報の整理統合の場を提供する」ためには、看護に関係する他分野の情報も含めて教育に活用できる能力が求められる。
- ③ 教育改善モデル「2.3 授業にICTを活用したシナリオ」③ 学生に学年混合でチームを組ませ、上級学年生をファシリテーターとし、対面やネット上で基礎知識を学ばせ、「2.2. 授業の仕組み」「学修到達度の確認は、課題事例の検討やグループ発表にどのように各学生が関与したかを学修ポートフォリオを踏まえて評価する」を実現するためには、「チームによる学修を効果的に行えるよう指導でき、また、学修ポートフォリオにより学生個々への指導や評価ができることが必要である。
- ④ 教育改善モデル「2.2. 授業の仕組み」「看護学の各領域の枠を超えて、各種の事例をプールし、必要なエビデンスの検討や社会資源の活用ができるよう、教員連携による統合授業を構築する。また、事例ごとに専門領域のアドバイザーを置き、学生－教員間の相互コミュニケーションで学びを支援する」ためには、ICTを用いた他教員や専門領域のアドバイザーとの連携の他、教材やeラーニング、学生のコミュニケーションのためのICTスキルの習得が必要である。

以上を踏まえて、以下の通りまとめた。

- ① 領域を超えて患者の生活指導に関する実践的な授業シナリオをカリキュラムポリシーに準じて作成、実施できること。
- ② 患者の生活と看護実践の課題を説明するために、最新の保健・医療・福祉の情報を活用できること。
- ③ 他職種や他組織の専門職者に働きかけ、ICTを用いて連携協力を得ることができること。
- ④ 上級学年生をファシリテーターとした学年混合グループが効果的に学び合えるようにコーチングできること。
- ⑤ 学修成果のポートフォリオに基づき、グループごとの進捗状況を観察して、学生個々の問題に即した指導・評価ができること。
- ⑥ ICTなどを活用して学生とのコミュニケーション、適切な教材作成、eラーニングができること。

2. 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

「FD活動と大学としての課題」については、他職種との連携を前提とした看護学の教育体系や授業シナリオの振り返り、チームでの学修導入に関する研修、他職種と連携した教育方法の研究などが必要であり、「大学としての課題」については、研修実施や教材開発、教育支援システムの仕組みづくりや運営支援、財政支援、学外連携の支援などが必要であるとして、以下の通りまとめた。

(1) FD活動

- ① 看護学の教育体系を振り返りできる意見交流の場を積極的に設ける必要がある。
- ② 授業シナリオの適切性について、ケーススタディとして定期的に検討する場を設ける必要がある。
- ③ グループ学習を促進する指導法やファシリテータの育成・活用等についてのワークショップを組織的に行う必要がある。
- ④ ICTを用いて他職種や他組織と連携・協力する仕組みや教育方法を探究する場を設ける必要がある。
- ⑤ ポートフォリオを用いて学生個々の理解度に即した指導・評価を行う方法について、研究会等を通じて理解の普及を図る場を設ける必要がある。

(2) 大学としての課題

- ① ファカルティ・ディベロップメントの専門家を大学として招聘し、研究会等を通じて教育方法の理解の普及を図る必要がある。
- ② FD活動の基盤を充実するために、授業の録画、教材コンテンツ・模擬電子カルテ、ネットワーク上のディスカッション、ポートフォリオ等を大学として積極的に支援・推進する組織と財政的支援が必要である。
- ③ 学内外の教員及び他職種や他組織から協力を得るために、連携の呼びかけ、制度の整備および財政的な支援を行う必要がある。
- ④ ICTを活用した教育手法を支援する組織と環境を大学として整備する必要がある。

3. 次回委員会

第3回看護学教育FD/ICT活用研究委員会は9月18日9:30~12:00に開催する。

次回委員会では、昨年度まとめた「看護学教育における教育改善モデル」を5年先に実現すべき教育改善モデルとして提案した背景や主旨について400字程度で纏めることとなった。この説明文は、事前に作成したうえで委員間に回覧し、次回委員会ではその原稿をさらに修正するという方法をとることとなった。